

1. 調査報告概要表

作成日平成19年 10月2 日

【評価実施概要】

1

事業所番号	1070101066
法人名	社会福祉法人 ほたか会
事業所名	グループホーム あおなし
所在地	群馬県前橋市青梨町1670 (電 話)027-210-7100
評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大友町2-29-5
訪問調査日	平成19年 9月18日

【情報提供票より】(平成19年8月30日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 12 年 8 月 1 日
ユニット数	3 ユニット
職員数	利用定員数計 27 人 常勤 18 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 19

(2)建物概要

建物構造	鉄骨瓦葺陸屋根造り 2 階建ての1階部分 3階建ての1.階 ~ 1.2 階部分
------	--

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有(円)	有りの場合	有/無	
保証金の有無	無	償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	また一日当たり 1, 500円			

(4)利用者の概要 (8月30日現在)

利用者人数	26 名	男性	5 名	女性	21 名
要介護1	3 名	要介護2	7 名		
要介護3	5 名	要介護4	7 名		
要介護5	4 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	63 歳	最高	92 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	老年研究所付属病院 こすもすクリニック 小野歯科医院 青柳歯科医院
---------	-----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者、職員は利用者の生活を支えるために、寄り添いながら利用者の想いや意向を把握するように努力をしている。日々の気づきや情報交換をきめ細やかに行い、介護計画に反映させその人らしく暮らせるように取り組んでいる。地域との交流は、地域住民の一員として地元の活動や行事に参加をし交流を深めている。医療連携が充実され、健康管理や終末期に対する家族の要望に応じられる体制が整えられている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>玄関の施錠や食器類,利用者職員と一緒に食事することは改善されていない。地域の人たちとの交流は自治会に加入し、地域活動には積極的に利用者と職員が共に参加(清掃活動、花植え等)している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>サービス評価の意義や目的は全職員に伝えているが、自己評価には管理者だけで取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>事業所から報告を行い質問や意見・要望を聞いている。参加者と利用者が一緒に食事することで職員の動きに対し意見をもらい、運営に活かしている。前橋市主催の情報交換会に参加し、市と連携を図っている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>年1回『施設サービスアンケート』を実施し、家族から意見や要望を聞く機会を作っている。家族から居室の隅の埃が気になるなど意見があり、清掃に注意をするように取り組んでいる。意見に対しては、ホーム側でコメントを添えて掲示する。また、来訪時に何でも言いやすい雰囲気づくりに配慮している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し、地域活動(清掃活動や花植え等)や行事(どんど焼き等)に利用者は職員と共に積極的に参加をし交流を図っている。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を理解はしているが、理念の見直しは行なっていない。	○	地域密着型サービスの意義を職員全員で確認をして、利用者の地域生活の継続支援と事業所と地域の関係性を話し合い、理念の見直しをしてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	『グループホームあおなし訓』を朝礼で唱和をしており、曜日ごとにその日の目標を決め、具体的な理念の実現に向け共有している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域活動(清掃活動や花植え等)や行事(どんど焼き等)に利用者と職員で積極的に参加し交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的は全職員に伝えているが、自己評価を管理者だけで取り組んでいる。	○	自己評価は日々のサービスの振り返りや見直しをする良い機会となるので全職員で取り組むようにしてほしい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的開催しており、事業所からの報告を行い質問や意見、要望を聞いている。食事を利用者と共にもらい職員の動きに対する意見等も頂いている。外部評価に対する取り組みを報告し、サービスの向上のためにアドバイス等も受けて運営に反映させている。ホーム便りを地域に配布してはどうか		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に担当者の参加がある。また、市主催の情報交換会が開かれ参加し交流を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日々の暮らしや健康状態等の写真を載せて個別に便りを送っている。運営推進会議録や行事連絡等も送り報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回『施設サービスアンケート』を実施し、家族から意見や要望を聞く機会を作っている。家族からの意見で居室の隅の埃については清掃に注意するように取り組んでいる。意見に対して、ホーム側のコメントを添えて掲示するようにしている。また、来訪時に何でも言いやすい雰囲気づくりに配慮もしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職や異動がある場合は、利用者、家族への信頼関係を築くために約1ヶ月前に新しい職員を迎え入れて、業務の引継ぎが出きるように努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内に介護研修センターがあり、ビジネスマナーや介護技術をはじめ、対象職員への段階に応じた研修を行っている。外部研修にも積極的に参加をするようにしており、研修後は月1回の会議で伝達し全職員で共有するようにしている。資料は閲覧していつでも見られるようにしてある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に於いて、研修会や会議等で交流を図っており、いつでも気軽に相談や情報交換を行う機会がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者、家族の見学や入所申し込みを受け付けている方には居室が空いている時に3～7日間位の宿泊をしてもらい雰囲気に馴染まれるようにすることもある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	支援する側・支援される側という意識持たず、お互いが日々の暮らしを協働しながら和やかな生活ができる場面づくりや言葉かけをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の気持ちに寄り添って、言葉や表情から一人ひとりの思いや意向を把握する努力をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族には日頃のかかわりの中で思いや意見を聞き、反映させるようにしている。アセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行い作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人、家族の要望や職員の情報や気づき、ケアのアイデアを話しあっている。実情に即した、また予防的に対応していくための介護計画の見直しをしている。状態の変化に応じた見直しは随時しているが、定期の見直し期間が長期に設定されている。	○	実情に応じたケアにつながるように介護計画は見直しを行っているが、設定した期間を短縮する方向で検討してほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制や短期利用を受けるようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、利用前からのかかりつけ医での医療が受けられるようになっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に事業所としての看取りの指針を説明している。状態の変化に応じてその都度家族と話し合い、意思確認をしている。かかりつけ医・訪問看護師・職員・家族を含めて看取りの支援体制の充実を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、一人ひとりのペースや想いに添って柔軟に支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に食事の準備や片付けを行っているが、職員と利用者が同じテーブルを囲んで食事はしていない。	○	職員が利用者と同じテーブルを囲んで楽しく食事ができるような雰囲気づくりを工夫してほしい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は設定してあるが、利用者一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、気持ちよく入浴ができるよう支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野(食事の準備や片付け、植物の手入れ等)で一人ひとりの力を発揮してもらえるように仕事を頼み、感謝の言葉を添えている。外食や買い物、季節に応じた花見、イチゴ・梨狩り等に出かけ季節を感じてもらおうようにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気、利用者の気分に応じて散歩に出かけるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関の鍵をかけることを常態化している。	○	鍵をかけられ自由に外に出られないことについて利用者の個々の立場で考え、安全面に配慮して日中鍵をかけないで支援していく検討をしてほしい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	自動通報装置、年2回の防火訓練を利用者と共に行っている。地域の協力依頼もしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立と食材の配送は、グループ内企業に委託している。利用者の希望は給食担当者から栄養士に伝えている。栄養士が定期的にホームを訪問し、食事の様子を見たり話を聞いている。食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな窓や吹き抜けがあり、自然光が多く注がれたり、食器を洗う音、ご飯が炊ける匂いが漂っている。神棚や利用者の手作り人形、書など飾られ、観葉植物や花が置かれ居心地の良い環境になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や仏壇、家族写真、趣味の作品、愛着のあるぬいぐるみ等の持込が多く、個性ある居室環境に配慮されている。		